

英霊に感謝の気持ちを捧げましょう

八月十五日は兵庫縣姫路護國神社へ



令和5年 8月15日 (火)

英霊感謝祭

本殿にて午前10時より  
(どなたでも参列出来ます)

※正午は黙禱を捧げます

英霊顕彰の集い

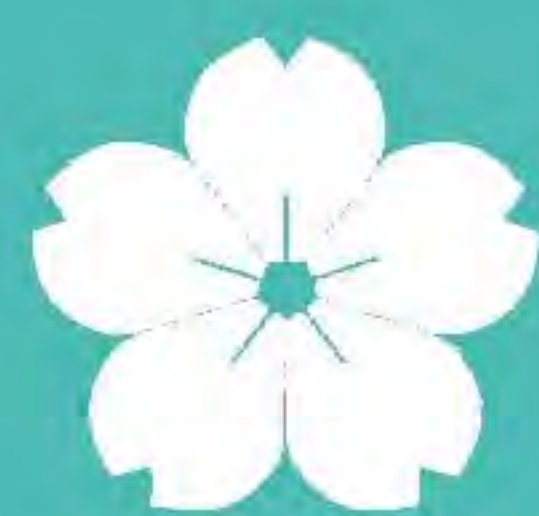
特集「語られないビルマの戦い」  
午前11時～午後4時頃

参集殿2階 (入場無料、入退場自由)

兵庫縣姫路護國神社 兵庫縣姫路市本町118 電話079-224-0896

ホームページ <http://www.himeji-gokoku.jp> メール:himejigokoku@gmail.com





# 英霊顕彰の集い

## 特集

### 「語られないビルマの戦い」

～大東亜会議からインパールへ～

陸軍が行ったインパール作戦は、現在の日本では必ずといってよいほど『無謀な作戦』と評価されています。そして現地の兵隊が悲惨であったことばかりが強調されているような気がします。日本陸軍は、なぜ無理をしてまであの作戦を決行しなければならなかったのでしょうか？「援蒋ルートへの遮断」との説明が一般的にされていますが、それだけではありません、もっと大事な理由があったのです。その答えのヒントは、後ろにいるチャンドラボースが出席した大東亜会議にあります。インドでは、日本と違いインパール作戦は『インパール戦争』と言い換えられ高く評価されています。元インド国民軍S・S・ヤダバ大尉は靖国神社でこう記しました「～インド国民は大義のために生命を捧げた勇敢な日本将兵に対する恩義を末代にいたるまで決して忘れません。我々はこの勇士たちの霊を慰め、ご冥福をお祈り申し上げます」。歴史は様々な角度から検証する必要があります。戦場が悲惨という理解だけでは大東亜戦争の本当の歴史は見えてきません。インパールでは姫路の精鋭『歩兵第百十一聯隊』が大活躍しています。我々のご先祖達がなぜ、ビルマで必死に戦ったのかという歴史の一面を「英霊顕彰の集い」で感じて下さい。

画像 チャンドラボースとガンジー



### 「英霊の言乃葉」朗読

英霊が家族や恋人に残した手紙や遺書を紹介します。

### 「日本を唱う」～大声で唱おう「海ゆかば」～

4年ぶりに復活する姫路護國神社音楽隊が当時流行した歌謡曲などを演奏します。最後は、皆で「海ゆかば」を唱います。

主催：兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

### 崇敬奉賛会入会のお願い

護國神社には「氏子」と呼ばれる存在がありません。日本の為に懸命に戦った英霊を支えるのは、国民しかいないのです。皆様のご理解とご協力で、末永く共に護國神社を支えましょう。

※ 右QRコードから入会申込みが出来ます。また、社務所でも随時入会を受付けています。

